

### ●蓮見直子さん

（大日本インキ化学工業  
バドミントン部所属）

「WSFジャパンの活動内容はニュースを読んでわかりましたが、名前だけでは何をしているのかわかりにくいので、親しみやすいキヤッチフレーズを宣伝してはどうでしょうか。紹介パンフレットなどがあれば知人にもくどくど説明せずに入会を勧められます。」

また、会員の皆さんの経歴や現在の様子にスポーツにかかわっているのか、どんな悩みを抱えているのかを紹介してもらえたら良いと思います。バドミントンの一プレーヤーとして、また子供や女性のクラブチームの指導者としても頑張っている蓮見さんは、WSFジャパンに対して、こんな提案をしてくださいました。

「会員としてのメリットを生かせる活動を期待しています。草の根運動がいつしか花を咲かせ、実となり、種を蒔いて行くことを願いながら。スタッフもそう願っています。」

### ●千葉吟子さん

（日本体育大学  
教授）

現在、高齢者の運動と美容について関心を持っているとおっしゃる千葉さん。WSFジャパンが提供している、女性スポーツの医学関連情報が役立つようです。

TOL（オリンピック日本代表女子

選手の間）関連の会議で三ッ谷代表を知り、二十一世紀に向けての女性スポーツに対する前向きな考え方、取り組む姿勢に賛同し入会されたとのこと。

「女性はいくつになっても自分の容姿が気になり、美容に深い関心を持っています。女性のスポーツ熱が年々高まってきている現在、運動と美容は大変、関心のあるテーマです。WSFジャパンを通じて、医学的立場から見た女性スポーツの情報を得られることは大変心強く思います。今後も、女性の健康」について医学関係者との懇談会

## Hot Line

# 会員の広場

などを開催してほしい」との要望もいただきました。

### ●木田恒晴さん

（共同通信者  
編集委員・論説委員）

現在、木田さんは西洋の名画を紹介する「日本のコレクション」のデスク、「海外スポーツ事情」の執筆とデスク、そしてスポーツ全般の論説の執筆をしています。

「スポーツ界の男女の壁は、ベルリンの壁よりも高い。いつもこういって嘆いていた三ッ谷さん（WSFジャパン代表）のサポーターとしての入

会です。「この壁を崩壊させられるのは三ッ谷さんしかない。そのためWSFジャパンに以下のようなアドバイスをくださっています。」

「WSFジャパンは、女性スポーツのシンクタンクになるべきです。日本では情報が無料という悪しき慣例が残っていますが、情報にはお金が掛かることを、各方面に理解してもらおうと。具体的には、インパクトの強いテーマを選び、調査をして世に発表し、その活動をメディアに知らせることです。」

### ●照井英里子さん

（ラジオ体操  
サークル主宰）

WSFジャパン・ニュースや様々な資料を通して、意外な分野で活躍している女性を知ることが、照井さんにとって、貴重な情報であり、また刺激にもなっているそうです。

照井さんは体育指導員をしている関係で、地域の生涯スポーツ（特にラジオ体操やマラソン）の振興に取り組んでいます。そんな中で思うことは「スポーツは文化であり、仲間づくりの場でもある」ということ。「WSFジャ

パンの会員としては役に立っていないかもしれませんが、せめて地元で頑張りたい」とおっしゃいます。WSFジャパンの活動に対しては「現在、組織が抱えている悩み、問題を会員に提起してほしい」と積極的な意見をいただきました。

大阪国際マラソンをもう一度走りた

### ●知念かおるさん

（社団法人日本エプロ  
ビック連盟常務理事）

「一般スポーツの愛好者の意識や組織活動を広く知り、ニューススポーツとして変化・発展段階にあるエアロビクスの今後の普及に役立たせたい」と、入会していただきました。知念さんはNHKテレビ「エアロビクスを楽しむ」の講師を務めていたので、ご存じの方も多しはず。

エアロビクスは当初からビジネスとして導入されました。プロとしての評価とボランティアアマインドとの関連性など、プロスポーツとしての理想的な形態を考えられればと思っっているそうです。

「エアロビクスは幸運にも（？）女性上位の現実です。今後、WSFジャパンには、女性の真の自立のために、スポーツと女性の関わりを精神性をも含めて提案し続けてほしい」とエールを送ってくださいました。